

## 作法 2 落ち着いた色彩による街なみづくり

大山街道の歴史的な雰囲気と調和した落ち着いた色彩による街なみづくりを目指します。

### ■現代の街なみの魅力を高めるための基本の作法

#### ①景観形成基準の色彩の基準の遵守による街なみづくり

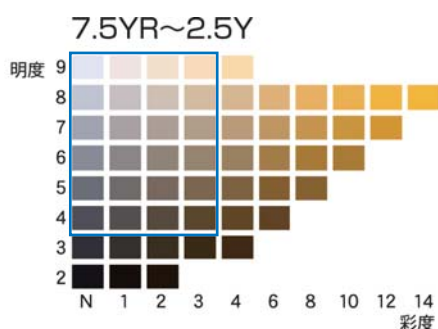
景観形成基準の色彩の基準を遵守し、隣接する建物と調和した色彩を選択すると、調和のとれた街なみとなります。

<参考>	●色相の範囲	●明度・彩度の範囲	
景観形成基準 色彩の基準	7.5YR ~ 2.5Y あたたかみのある YR (イエローレッド)から Y (イエロー)の範囲 ※無彩色も使用する ことができます。	低層部 (2階以下かつ高さ10m以下) 明度 4.0 以上 彩度 3.0 以下	中高層部 (低層部に含まれないもの) 明度 6.0 以上 彩度 3.0 以下

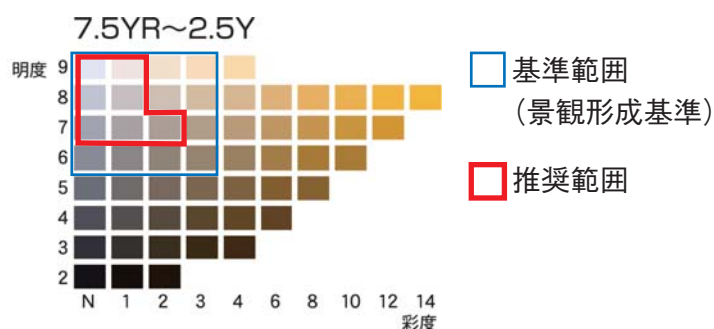
#### ②低層部と中高層部の外観を塗り分ける

2階までの外観で街なみをつくるには、低層部(1、2階)と中高層部(3階以上)の外観の色彩を塗り分けると効果的です。中高層部の色彩は、低層部より高明度または低彩度の色彩(下記の推奨範囲の色)を用い、空に溶け込ませるとともに低層部では、中高層部より低明度または高彩度の色彩を用いるなど、低層部と中高層部を塗り分けることにより、宿場町のスケール感に合った街なみをつくり出すことができます。

低層部 (1、2階)



中高層部



#### ③自然素材そのものの色の活用

かつての宿場町の街なみは、木、石、土などの自然の素材で構成されていました。現代の街なみにおいても、これらの自然素材を積極的に利用することにより、落ち着いた深みのある雰囲気を作ることができます。

## ■和の街なみを意識した応用の作法

### ①和の素材から想起されるテーマ色の活用

低層部（1，2階部分）については、大山街道の歴史的建造物などに見られる「白漆喰の白」、「石の灰色」、「土壁の黄土色」、「木の焦げ茶色」、「瓦の鼠色」の中から下記のテーマ色を選定し、基調色と強調色を組み合わせることで伝統的な軸組工法を想起させる配色を行うことにより、街なみを整えることができます。（下図を参照）

なお、原則として、景観形成基準における色彩の基準外の色はアクセントカラーとし、各面の1/5以下まで使用可としますが、色の組み合わせや素材を工夫して良好な色彩デザインとした場合は、1/5を超えて使用できるものとします。

※以下の色彩例のマンセル値は例示です。近似色についてもテーマカラーとして活用してください。

#### 基調色として用いるテーマ色

白漆喰の白



色彩例



10YR9/0.5

石の灰色



色彩例



10YR7/0.5

土壁の黄土色



色彩例



10YR7/2



2.5Y8/1.5



2.5Y7/2



10YR6/4



10YR7/5



2.5Y7/4

※彩度4を超える色彩を用いる場合は、光沢感のある素材の使用を避けることを推奨します。

#### 強調色として用いるテーマ色

木の焦げ茶色



色彩例



5YR2/1



5YR3/1

瓦の鼠色



色彩例



10YR4/0.5



10YR5/0.5

※自然界の色に無彩色（N：ニュートラル）はありません。無彩色に近い、白漆喰や瓦の色もわずかに色味を帯びています。

マンセル値の読み方

**5YR2/1**

色相 明度 彩度

#### 効果的なテーマ色の使い方（伝統的な軸組工法を想起させる配色）



**基調色**：壁など面になっている部分には基調色を用います。

**強調色**：柱や格子、窓枠などの面積が狭い部分には強調色を用います。